

1 浄水過程では

- 浄水場では、川や沼から取り込んだ原水に薬品を加え、水の中の濁りを固めて沈殿させます。沈殿した濁りは「浄水場発生土」とよばれる汚泥で、環境に配慮した方法で処理されています。
- 浄水場の設備や浄・給水場の照明機器を、更新に合わせて省エネルギータイプのものに交換するなど、電力の削減に積極的に取り組んでいます。

(1) 電力の削減（省エネルギー推進工事）

- 柏井浄水場東側排水処理施設では、老朽化した遠心分離型濃縮装置に代わる、消費電力の少ないろ過濃縮装置の設置工事が完了しました（6台設置予定のうち、平成20年度に3台設置、平成21年度に残り3台設置完了）。
- 浄・給水場施設の照明機器を平成18年度から順次、省エネルギータイプのものに交換しています。

(2) 福増浄水場における浄水場発生土の天日乾燥

水分を多く含んだ浄水場発生土を処理するためには、まず、脱水処理を行う必要があります。福増浄水場では場内に天日乾燥床を設置し、太陽熱等の自然エネルギーを使って発生土の乾燥を行っています。通常の脱水処理と比べ電気や灯油などの燃料を低減し、CO₂の発生を抑制することができます。これにより平成22年度はCO₂を418 t削減できました。



【福増浄水場の天日乾燥床】

(3) 浄水場発生土の有効利用

浄水場発生土は、脱水処理した後、セメント原料等へ再資源化しています。平成22年度の再資源化率は、平成21年度に引き続き100%でした。また、浄水場発生土の処理の多様化を図るため、浄水場発生土の一部を「緑化培養土」化しています。



【緑化培養土試作の生育状況試験】

(4) 水質検査における廃液及び原水水質自動監視装置からの廃液の無害化

浄水場や水質センターでの水質検査や、取水場での原水水質自動監視装置では試薬として薬品を使用します。その廃液は産業廃棄物として委託先の処理工場で無害化され、環境に負荷を与えないよう適切に処理されています。

(5) 柏井浄水場における活性炭の再生

柏井浄水場では、凝集沈殿・急速ろ過の通常の浄水処理ではとりきれないにおい等に対処するため、オゾンの酸化作用と粒状（球状）活性炭の吸着作用を活用した高度浄水処理を実施しています。

この高度浄水処理に用いる粒状（球状）活性炭を、場内に設置した活性炭再生施設で再生し再利用することで、廃棄物の削減・資源の有効利用を図っています。